References

Alam M. K. 1985. Taxonomic studies in the Loranthaceae of Bangladesh. Bangladesh J. Bot. **14** (1): 22–36.

Duthie J. F. 1960. Flora of upper Gangetic plain and the adjacent Siwalik and Sub-Himalayan tracts. **2**: 172–177. Botanical Survey of India, Calcutta.

Hara H., Chater A. O. and Williams L. H. J. 1982. An Enumeration of Flowering Plants of Nepal. Vol. **III**. Trustees of British Museum (Natural History), London.

Hooker J. D. 1890. The Flora of British India. **5**: 203–227. Bishan Singh Mahendra Pal Singh, Dehra Dun.

Press J. R., Shrestha K. K. and Sutton D. A. 2000. Annotated checklist of the flowering plants of Nepal. pp. 190–191. The Natural History Museum, London.

ネパール新産のヤドリギ科 *Viscum monoicum* Roxb. ex DC. はスリランカ，インドからヒマラヤ，インドシナ半島をへて雲南まで分布するが，ネパールからは記録されていなかったので，新分布を報告する．

([a]Amrit Campus, Tribhuvan University, Nepal
E-mail: mdevkota@wlink.com.np,
[b]Lecturer, Dean's Office,
Institute of Science and Technology,
Tribhuvan University, Nepal)

トウゴクサバノオの北限と分布パターン（大橋広好，吉田繁）

Hiroyoshi OHASHI and Shigeru YOSHIDA: The Northernmost Locality of *Dichocarpum trachyspermum* (Maxim.) W. T. Wang & Hsiao (Ranunculaceae) and the Distribution Pattern in Its Northern Area

トウゴクサバノオ *Dichocarpum trachyspermum* (Maxim.) W. T. Wang & Hsiao は本州の陸前以南（大井 1953）あるいは宮城県以南（北村・村田 1961），四国，九州に分布するとされている．本州における分布については中南部（牧野・根本 1925, 1931）とされていたが，この分布域を陸前以南と改めたのは大井：日本植物誌（1953）が最初であったと思われる．最近本種が岩手県大船渡市内に自生することが分かった（Fig. 1）．五葉山の南約 7 km の地点であって，岩手県では初めての確認であると思われた．ところが大船渡は陸前国であり，陸前以南の表現にはここが含まれるので，陸前国における分布の内容を調べることが必要となった．大井先生の日本植物誌は主として国立科学博物館の標本に基づいて作られたが，京都大学の標本もご研究の基礎となっている．東大標本（当時は理学部植物学教室にあった）のご利用は不明だが，参考になさったこともあると思われる．問題解決のため，門田裕一博士に国立科学博物館標本室（TNS），永益英敏博士に京都大学植物標本室（KYO），大場秀章博士に東京大学植物標本室（TI）の陸前産トウゴクサバノオ標本を調べていただいた．

その結果，TNS に「陸前名取郡生出村（おいでむら）太白山への途中，1925年 5 月 5 日，東北帝大生物学教室園丁渡辺採集，TNS 62283（伊藤篤太郎標本）」の標本があった．（伊藤篤太郎博士については大橋・伊藤（2003）参照のこと．同氏の標本は TNS に寄贈された）．また TI に「名取郡生出村，1916年 4 月22日，小倉　謙」というそれよりも古くに採集された標本があった．おそらく TNS 標本が大井先生「陸前以南」の証拠標本であると思われる．この 2 点だけが KYO, TI，TNS に現存する1953年以前に採集された陸前国産トウゴクサバノオ標本である．なお，TUS では「太白山下，1914年 4 月，遠藤隆次 TUS 17674」の標本が古い．KYO には1961年以前の宮城県産トウゴクサバノオ標本はなく，北村・村田（1961）の「宮城県以南」は TNS か TI の標本を根拠にしたものと思われる．TI と TNS の標本からみて，大井先生の表記した陸前は生出村であり，この地点は今日の地名表記では宮城県仙台市太白区茂庭の字生出前と字生出森東に当たる（生出村は分割された）．具体的な採集地点としては生出村の中の太白山地域であると思われる．

仙台市太白山は海抜320 m，円錐形の山容

がよく目立ち，仙台では有名な山で，太白区もこの名に由来し，昔からの動植物採集地であった．昭和30年代前半以前には仙台市内の八木山神社あたりから太白山まではモミ林と落葉樹林とがよく発達した，沢沿いと丘陵地の好採集コースであった．前記の諸標本もこのコースの太白山周辺で採集されたものであろう．なお，トウゴクサバノオは最近でも太白山地域に生育しており，最新のコレクションには1994年5月10日採集のY. Ueno 36890（TUS 182794）がある．仙台市太白山は北緯約38°14′，東経約140°14′にある．しかし，最近では宮城県における本種の最北産地は黒川郡大和町吉田の鎌倉山山麓が知られており，宮城県植物目録2000には七ツ森として載せられている．同所は仙台市の北にあり，太白山から直線距離で約23 km，北緯約38°26′，東経約140°49′に位置する．

今回の発見地である岩手県大船渡市赤崎町後の入地区は北緯約39°04′，東経約141°45′である．七ツ森から直線距離で約110 km，太白山からは約120 km東北にある．したがって，以上のようなこれまでの北限地に比べると，大船渡市は明らかにトウゴクサバノオの新北限地といえる．

岩手県大船渡市の北限分布

2002年に吉田は大船渡市の植物愛好家大平峯子氏から，後にトウゴクサバノオと判明した植物の同定を依頼された．不完全な標本であったため，吉田は2003年5月に現地を確認し，さらに二ヶ所の生育地を見付け，花・果実を得たうえで，それがトウゴクサバノオに当たると考え，大橋にその同定の確認を依頼した（Fig. 1）．2004年6月に吉田と大橋は上野雄規氏と共に現地2ヶ所で同種を再確認した．生育場所は大船渡市赤崎町後の入地区内の山林で，両地とも植林されたスギ林の中である．1ヶ所は10個体ほどの集団で，沢から少し離れた東向きの斜面，高度約100 mの狭い範囲の場所に生育している．クサソテツ，オオバクロモジ，オオバショウマ，キバナアキギリの間に生え，春にはミミガタテンナンショウが見られた．ここから下がって高度約80 mの東向きの急斜面（斜度20–25°）にはモミジガサなどと共に400–500個体が群生している．他の一ヶ所は高度約50 m，北西向き斜面で，やや平坦なスギの植林中で沢から少し離れた場所で特に湿った地点ではなく，200–300個体ほどの集団であった．下草は少なかったが，ウワバミソウと混生し，クサソテツ，チヂミザサ，ミズヒキ，キツリフネが見られた．

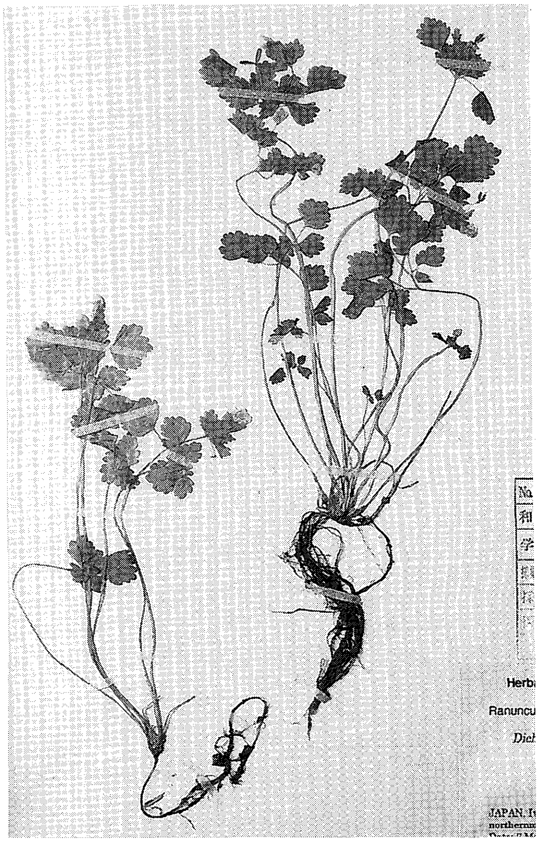

Fig. 1. Voucher specimen of *Dichocarpum trachyspermum* (Maxim.) W. T. Wang & Hsiao collected from the northernmost locality (TUS 289030).

宮城・岩手県における分布パターン

トウゴクサバノオは関東以北では太平洋側に分布し，その分布パターンから太平洋要素とされている（Hara 1959）．宮城県では南部の太平洋側に分布する（Ohashi and Sugaya 1963）．宮城県南部では東南端に阿武隈山地

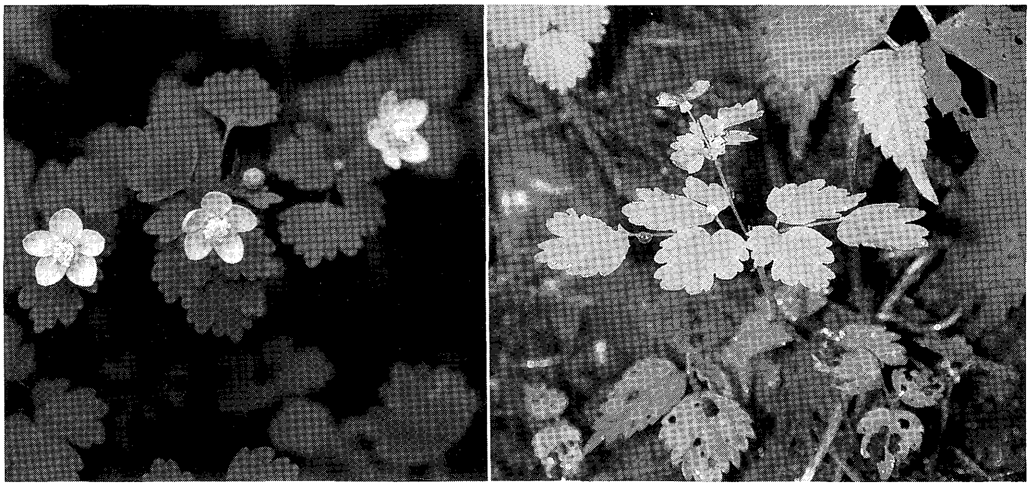

Fig. 2. *Dichocarpum trachyspermum* (Maxim.) W. T. Wang & Hsiao at Iwate Prefecture. Ofunato-shi, Akazaki-chô, Atonoiri, alt. ca. 100 m. Left photo on 2 May 2003; Right on 20 June 2004.

北端の丘陵が太平洋側にあるとはいえ，太平洋岸から奥羽山脈にいたるまでの間に，地形・高度・気候の違いの境界線（実際には境界地帯）が走る．これらは奥羽山脈にほぼ平行する．仙台平野から丘陵地帯ではこの環境上の境界線が植物分布上の太平洋要素（あるいは日本海要素）の境界線にかなりの程度一致する．県の北部では太平洋側に北上山地あり，太平洋側気候は北上山地東側に狭められるため，太平洋要素もここに分布する．

植物分布上の境界線として鈴木（1959 fide Suzuki 1961, 1978）によって設定されたスズダケ線とミヤコザサ線はその好例である．1954, 1955年の農林省農業総合研究所の全国積雪分布図で，宮城県内をほぼ南北に走る年最深積雪量75 cmと50 cmの分布線が示された（1959 fide Suzuki 1961, 1978）．この分布線が太平洋要素であるミヤコザサ節の種とスズダケ属の分布西限線にほとんど一致することが明らかにされた．Ohashi and Sugaya（1963）は宮城・山形県に跨る大東岳と周辺地域（およそ仙山線宮城県作並駅と山形県山寺駅との間の南側で，名取川の北側）の維管束植物フロラ（1183種）を調べ，その中の日本海要素と太平洋要素の分布を比較して，宮城県側に両要素の境界があり，その中で最も著しい境界はスズダケ線に相当することを示した．この中で，トウゴクサバノオはミヤコザサ線の地域に当たると思われる場所（仙台市太白区秋保町馬場上ノ原付近）で見いだされた．大橋（1987）は宮城県南部の日本海区系と太平洋要素が主な特色となる関東区系の境界線をミヤコザサ線にほぼ一致するとした．一方，宮城県北部から岩手県南部では太平洋要素はふつう北上山地の東側に分布する．大船渡市のトウゴクサバノオ新分布は太平洋要素の分布地域内にある．

KYO, TI, TNS および TUS 所蔵のトウゴクサバノオ宮城県産標本を北から南の順に挙げると次のようになる．黒川郡大和町吉田鎌倉山麓（K. Matunaga & H. Yoshida 13 May 1979 TUS）; 仙台市秋保上ノ原（H. Ohashi 2869 TUS），太白山（R. Endo in Apr. 1914 TUS, Y. Ueno 36890 TUS），佐保山（Y. Ueno 36136 TUS）; 名取郡生出村（Y. Ogura on 22 Apr. 1916 TI, Watanabe on 5 May 1925 TNS 62283）; 名取市大沢（Y. Tateishi & al. 10136 KYO, TUS; Y. Tateishi & al. 10191 TUS），余方－大沢（Y. Tateishi 10041 TUS），樽水（T. Kurosawa 2176 TUS），愛島笠島（T. Kurosawa 118 TUS）; 角田市斗蔵山（H. Iwabuchi 2823 TUS, K. Sohma 3439 TUS, Y. Tateishi & al.

10256 TUS, T. Koga & al. 58 TUS). この他に宮城県植物目録2000には蔵王町青麻山，角田市明通峠が挙げられている.

岩手県と宮城県におけるトウゴクサバノオの北端の分布をみると，これらの地域はミヤコザサ線上あるいはそれよりも東側にある．この分布状態からみてトウゴクサバノオは岩手・宮城県では典型的な太平洋要素の分布パターンを示している．しかし，南に下がって福島県を見るとトウゴクサバノオの分布域は太平洋側から奥羽山脈中の会津地方まで拡がっている（福島県植物誌 1987）．関東北部では茨城県，栃木県，群馬県に分布する.

Dichocarpum trachyspermum (Maxim.) W. T. Wang & Hsiao

New northernmost locality: Japan. Northern Honshu. Iwate Prefecture. Ofunato-shi, Akazaki-chô, Atonoiri, alt. ca. 100 m. 7 May 2003. S. Yoshida (TUS289030) (Fig. 1); loc. cit. Atoiri, alt. ca. 100 m. 20 June 2004. H. Ohashi, Y. Ueno and S. Yoshida 68620 (TUS302166); loc. cit. alt. ca. 50 m. 20 June 2004. H. Ohashi, Y. Ueno and S. Yoshida 68621 (TI, TUS302167).

The northernmost distribution and habitats of *Dichocarpum trachyspermum* is recorded. It was known to be distributed in central Miyagi Prefecter and southwards, but is found in Ofunato-shi, southeastern Iwate Prefecture, north of Miyagi Prefecture. This species is mostly found in the Pacific side areas in Japan especially in Kanto and Tohoku districts and its distribution pattern is recognized as a Pacific side element. The pattern is well shown in Miyagi and Iwate Prefectures.

本文をまとめるに当たり門田裕一博士，永益英敏博士，大場秀章博士にはそれぞれTNS, KYO, TIの標本を調べていただき，仙台市野草園上野雄規氏に宮城県内の分布について教えていただいた．皆様に厚くお礼申し上げます.

引用文献

福島県植物誌編さん委員会 1987. 福島県植物誌. 福島県植物誌編さん委員会，いわき.

Hara H. 1959. An outline of the phytogeography of Japan. pp. 1–96. *In*: Hara H. and Kanai H., Distribution Maps of Flowering Plants in Japan. Inoue Book Company, Tokyo.

北村四郎，村田 源 1961. 原色日本植物図鑑 草本編 II 離弁花類. 保育社，大阪.

牧野富太郎，根本莞爾 1925. 日本植物総覧. 春陽堂，東京.

——，—— 1931. 訂正増補日本植物総覧. 春陽堂，東京.

宮城植物の会・宮城県植物誌編集委員会 2001. 宮城県植物目録 2000. 宮城植物の会・宮城県植物誌編集委員会，石巻.

大橋広好 1987. 東北地方の植物区系について. 植物研究雑誌 **62**: 119–126.

——，伊藤隆之 2003. マメ科の新帰化植物ハナヌスビトハギ *Desmodium elegans* DC. 植物研究雑誌 **78**: 48–50.

Ohashi H. and Sugaya S. 1963. A floristic study of Mt. O-azuma, Miyagi Prefecture, and its neighbourhood. Ecol. Rev. **16**: 39–62.

大井次三郎 1953. 日本植物誌. 至文堂，東京.

Suzuki S. 1961. Ecology of the bambusaceous genera *Sasa* and *Sasamorpha* in the Kanto and Tohoku districts of Japan, with special reference to their geographical distribution. Ecol. Rev. **15**: 131–147.

鈴木貞雄 1978. 日本タケ科植物総目録. 学習研究社，東京.

([a]東北大学附属植物園津田記念館
E-mail: ohashi@mail.tains.tohoku.ac.jp,
[b]029-[redacted] 陸前高田市[redacted])